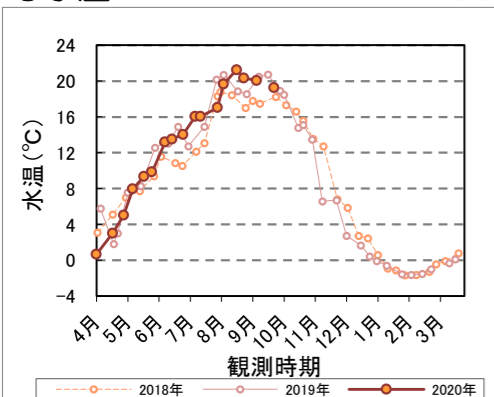


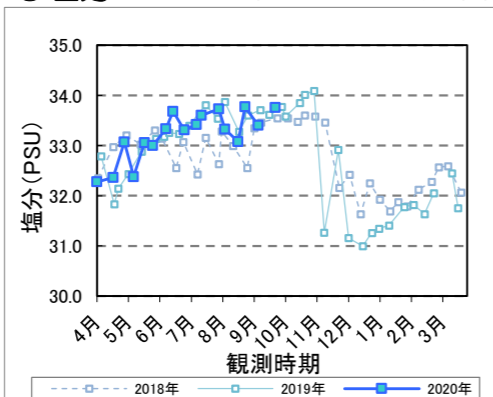
◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2020年9月)

海洋環境データ

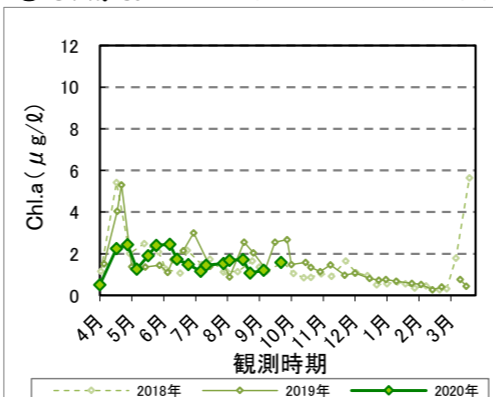
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

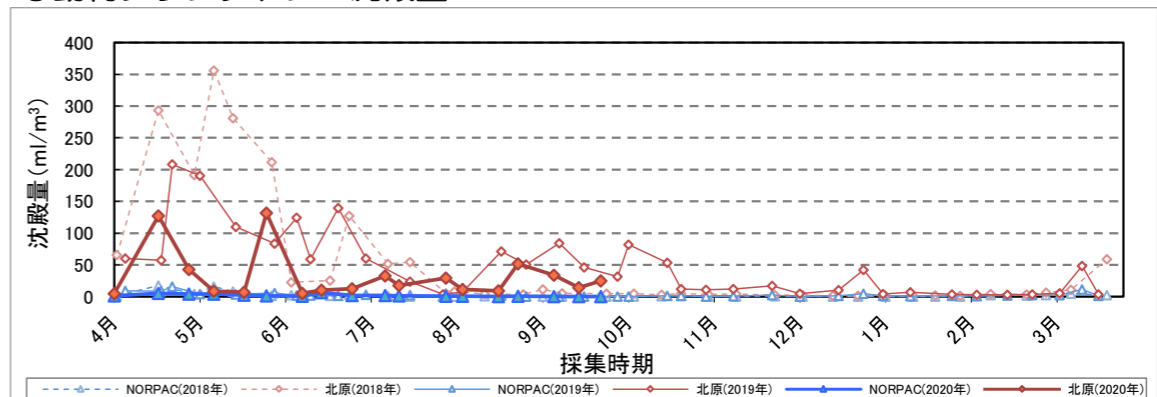


※観測：紋別市

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

	9月7日	9月16日	9月24日	
平均水温 (°C)	20.1	欠測	19.3	
平均塩分 (PSU)	33.4	欠測	33.8	
平均Chl.a (µg/L)	1.2	欠測	1.6	
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 0.4 (北原式定量ネット) 33.5	(NORPACネット) 0.4 (北原式定量ネット) 14.0	(NORPACネット) 0.2 (北原式定量ネット) 24.6	
主な出現種	(NORPACネット) ○Acartia steuerei [+] (カゲイダシ) [暖水性] ◎Evdadne spinifera [+] (トゲイダシ) [暖水性] (北原式定量ネット) ◎Paracalanus parvus s.l. [++++] (カゲイダシ) [暖水性] ○Pseudodiaptomus marinus [+] (カゲイダシ) [汽水性] ○Labidocera japonica [+] (カゲイダシ) [暖水性] ○Acartia hudsonica [+] (カゲイダシ) [汽水性]	(NORPACネット) ○Calanus pacificus [+] (カゲイダシ) [暖水性] ○Acartia hudsonica [+] (カゲイダシ) [汽水性] ◎Acartia steuerei [++++] (カゲイダシ) [暖水性] (北原式定量ネット) ◎Paracalanus parvus s.l. [++++] (カゲイダシ) [暖水性] ○Centropages bradyi [+] (カゲイダシ) [暖水性] ○Acartia steuerei [+] (カゲイダシ) [暖水性] ◎Oithona similis [+] (カゲイダシ) [1種]	○Penilia avirostris [+] (ウシガシ) [暖水性] ◎Evdadne tergestina [+] (トゲイダシ) [暖水性] (北原式定量ネット) ◎Copepoda (nauplius) [++++] (カゲイダシ) [暖水性] ◎Copepoda (nauplius) [++++] (二枚貝類の幼生)	(NORPACネット) ○Calanus pacificus [+] (カゲイダシ) [暖水性] ○Mesocalanus tenuicornis [+] (カゲイダシ) [暖水性] ○Paracalanus parvus s.l. [+] (カゲイダシ) [暖水性] ○Labidocera japonica [+] (カゲイダシ) [暖水性] ○Acartia steuerei [+] (カゲイダシ) [暖水性] (北原式定量ネット) ◎Paracalanus parvus s.l. [++++] (カゲイダシ) [暖水性] ○Acartia steuerei [+] (カゲイダシ) [暖水性] ○Oithona nana [+] (カゲイダシ) [暖水性]
備考	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻やや多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻やや多い	

出現量の多かった種類

- Paracalanus parvus s.l. (カゲイダシの1種: パカガシ・カゲイダシ)
体長: ♀0.8-1.0mm, ♂0.7-1.0mm. 全世界の沿岸域表層。日本では各地沿岸に分布するカラヌス目種中の1種で、本州中部では春に、東北以北では夏に多くなる。
- Pelecypoda (larva) (二枚貝類の幼生)
二枚貝類の発生途中の幼生。二枚貝類は一般にトロコフォア、ベリジャーの2つの幼生期をもち、浮遊生活を送る。ベリジャー幼生期の初期はD字型をしているため、「D型幼生」とも呼ばれる。
- Acartia steuerei (カゲイダシの1種: カゲイダシ)
体長: ♀1.1-1.6mm, ♂0.9-1.3mm. 北西太平洋沿岸。日本では北海道から琉球列島の内海、沿岸、満潮の感潮で繁殖することがある。
- Penilia avirostris (ウシガシ)
体長: ♀0.4-1.2mm, ♂0.7-0.9mm. 日本では太平洋、日本海沿岸、瀬戸内海。殻はうすく透明で、体の中身がはっきりと透けてみえる。肩甲は背側にあり、卵を産んで子どもを育てるときだけ大きくなる。
- Oithona similis (カゲイダシの1種: オイトナ)
体長: ♀0.7-1.0mm, ♂0.6-0.7mm. 各地の沿岸、沿岸、外洋に普通に出現。日本各地の沿岸にみられる代表的な種類。各大洋に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。
- Evdadne spinifera (トゲイダシ)
体長: ♀0.3-0.8mm, ♂0.5-0.7mm(推定値)。日本では太平洋、瀬戸内海、体の後面に棘状の突起がある。
- Copepoda (nauplius) (カゲイダシの1種: ナウプリウス)
カイアシ類の発生途中の幼生。殻を脱ぎ捨ててノープリウス幼生。コペポダイト幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生類には、餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。
- Evdadne tergestina (トゲイダシ)
体長: ♀0.3-0.9mm, ♂0.3-0.6mm. 日本では太平洋、日本海、瀬戸内海。体の後面に棘状の突起がない。

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。
 ※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+出現、++やや多い、+++多い、++++かなり多い、+++++極めて多い)。
 ※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、■汽水性種)。
 ※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。
 ※参考文献:
 ①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③岩国市立ミクロ生物館 監修(2011)日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
 ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The *Danielssenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.
 ⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門[恒里社厚生館]⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.
 ⑧西・加藤(2002)日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. *タクサ* 13, 5-17.⑨今島(1996)環形動物 多毛類[生物研究社]⑩日本プランクトン学会 監修(2011)すかん プランクトン[技術評論社]⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]
 ⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌* 26 (9), 877-881.⑬伊藤・水島・久保田(2005)駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部* 3 (1), 19-35.
 ⑭大越・野村(1990)穿孔性多毛類 *Polydora* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホウテイ貝浸食状況. *日本水産学会誌* 56 (10), 1593-1598.⑮水島・久保田・平野・リンズィー(2015)日本クラゲ大図鑑[平凡社]